

平成29年度 港区政策評価シート

1 政策名・所管部門

政策名	豊かで多様な文化に包まれた都市を育む		政策No.	27
所管部	産業・地域振興支援部	関係部	教育委員会事務局	

2 展開する施策の評価

	評価分布	
	S	1
	A	2
	B	2
	C	0
	D	0

3 主な施策の取組状況

①	施策名	区民が身近に文化芸術に触れる機会の充実			評価	A
	成果目標		活動指標			
	区民が文化芸術に触れる機会が充実し、心豊かな区民生活と魅力ある地域社会の実現が図られている		文化芸術のちから集中プログラム「通称：ミナコレ」スタンプラリー参加者数（景品交換数）			
	26(当初)	29(目標)	27(実績)	28(実績)	29(予測)	達成状況
	1,513人	2,300人	1,110人	2,066人	2,300人	達成
施策の取組状況	<p>・区内美術館などと連携し、区民が文化芸術に親しむきっかけをつくる文化芸術のちから集中プログラム（ミナコレ）への参加者数は、平成28年度に参加施設を増やしたことなどにより、大きく数字を伸ばしています。</p> <p>・ロビーコンサートや文化芸術フェスティバルの開催、アートと街が一体化した祭典「六本木アートナイト」への共同主催者としての参画などにより、区民が身近に文化芸術に触れられる機会を提供しています。</p>					
②	施策名	多様な主体との協働による文化芸術振興			評価	S
	成果目標		活動指標			
	多様な主体とのネットワークが形成され、新たな文化芸術活動の創造・推進につながっている		港区文化芸術ネットワーク会議への参加団体数			
	26(当初)	29(目標)	27(実績)	28(実績)	29(予測)	達成状況
	26団体	40団体	59団体	51団体	60団体	達成
施策の取組状況	<p>・新たな文化芸術の創造や事業連携、効果的な情報発信などの推進のため、文化芸術活動主体の協力・連携の場として、平成25年度に文化芸術ネットワーク会議を設置し、毎年度開催しています。新たな文化芸術活動団体に声掛けを行ったり、会議の議題を東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムにするなど、会議の充実を図ったことから、参加団体は着実に増加しています。</p>					
④	施策名	自然・歴史文化資源の保全・継承・活用の推進			評価	A
	成果目標		活動指標			
	自然・歴史文化資源の収集・保存・調査研究が進み、保全・継承・活用が推進されている		郷土資料館文化財資料収集件数			
	26(当初)	29(目標)	27(実績)	28(実績)	29(予測)	達成状況
	64,464件	70,000件	69,078件	71,895件	72,000件	達成
施策の取組状況	<p>・新郷土資料館の整備については、平成30年11月の開館に向けて改修工事や展示造作の準備を進めています。特に、展示については新郷土資料館の3つの大テーマに沿って資料の調査・研究・収集活動を進めています。</p> <p>・伝統工芸を記録保存するとともに、それを次世代へと受け継いでいくための効果的な手法を検討しています。</p>					

4 予算額・決算額・執行率（単位：千円）

年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
予算額	175,886	977,123	9,403,151
流用・補正	372	△ 2,616	—
決算額	158,281	923,235	—
執行率	89.8%	94.7%	—

予算・決算額の推移

- ・平成28年度は、新郷土資料館等複合施設開設に向けた実施設計の完成払や工事着手の前払金に係る経費の予算が増加しました。
- ・平成29年度は、新郷土資料館等複合施設整備工事が完了することによる工事の完成払や初度調弁等の予算が大幅に増加しています。

5 政策を取り巻く社会状況等

社会状況等の変化

※基本計画策定時からの社会状況等の変化、国や他自治体の取組状況

- ・国は平成27年5月に「文化芸術の振興に関する基本的な方針／第4次基本方針」、東京都は平成27年3月に「東京文化ビジョン」を策定し、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機とした文化芸術振興の推進が盛り込まれていることから、これらを踏まえ、文化芸術振興施策に取り組む必要があります。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、大規模な再開発事業が増えてきていることに加え、埋蔵文化財に関する問い合わせ及び立会調査が増加傾向にあることから、事業者に対して適切な指導ができる体制を整える必要があります。

区民の意見等

※区民アンケートや調査、区民から寄せられた意見等

- ・平成28年度に実施した港区文化芸術実態調査によると、全国的に港区民は文化芸術活動が活発であるものの、文化芸術活動を行わなかった理由に、育児や介護を挙げた方が一定程度いることが分かりました。また、文化芸術に関する情報を入手できていないとの意見が多く寄せられるとともに、地域や分野を越えた文化施設・団体同士の連携があまり進んでいない実態が明らかとなりました。
- ・郷土資料館で開催した特別展に訪れた方へのアンケートで、日曜日の開館希望が寄せられていたことから、新郷土資料館では日曜日も開館することにしました。

6 一次評価（所管部門による評価）

政策の達成状況

- ・文化芸術のちから集中プログラム（ミナコレ）やロビーコンサート、文化芸術フェスティバルの開催、六本木アートナイトの共同開催などに取り組むことで、多くの区民が身近に文化芸術に触れる機会の充実が進んでいます。
- ・多様な主体の連携・協働を推進するため、文化芸術ネットワーク会議を開催し、参加団体数は着実に増加していますが、実態調査によると、文化施設・団体同士の連携はあまり進んでいない状況です。
- ・平成30年11月の新郷土資料館開設に向け、工事は予定通り進んでおり、今後、平成25年8月に策定した新郷土資料館展示等総合計画に基づく、事業計画の実現に向けた検討を進めます。

今後の方向性 重点的に取り組む 施策・課題

- ・区民の文化芸術への関心と理解を深め、文化芸術に触れる区民の裾野を拡大するため、文化芸術に関する情報発信の強化や、文化芸術に触れる機会の少ない層や外国人を意識した施策など、文化芸術を鑑賞、参加、創造する機会の充実を図る必要があります。
- ・多様な主体による連携・協働を一層推進するため、参加団体同士の交流など、文化芸術ネットワーク会議の運営方法を工夫する必要があります。
- ・新郷土資料館において、港区の自然・歴史文化の発信拠点として充実した資料展示が行えるよう開館に向けて準備を進めます。

7 二次評価（港区行政評価委員会による評価）

政策の達成度

■十分達成しています □概ね達成しています □達成が不十分です

- ・活動指標「ミナコレスタンプラリー参加者数」「港区文化芸術ネットワーク会議への参加団体数」「郷土資料館文化財資料収集件数」については、指標が目標に達しており、成果目標は達成しています。
- ・文化芸術振興の拠点となる（仮称）文化芸術ホールの整備を進めていることは評価できます。

今後の方向性 重点的に取り組む 施策・課題

- ・東京2020大会の開催にあたり、引き続き港区らしい国際色豊かな文化芸術資源を活用し、区民が気軽に文化芸術に触れる機会を提供する施策を進めていく必要があります。

施策① 区民が身近に文化芸術に触れる機会の充実

施策担当課	国際化・文化芸術担当	関係課	—			評価 (S~D)	A
成果目標	区民が文化芸術に触れる機会が充実し、心豊かな区民生活と魅力ある地域社会の実現が図られている						
活動指標		26(当初)	29(目標)	27(実績)	28(実績)	29(予測)	達成状況
文化芸術のちから集中プログラム「通称：ミナコレ」スタンプラリー参加者数（景品交換数）		1,513人	2,300人	1,110人	2,066人	2,300人	達成
活動指標の説明、達成状況に関する特記事項	文化芸術施設を巡るスタンプラリー参加者への景品配布数は、区民が文化芸術施設に足を運び、文化芸術に触れた機会に比例して増加することから、ミナコレスタンプラリー景品配布数を指標に設定しています。平成28年度は、参加施設を増やしたことなどにより、実績が増加しました。						
No.	施策の推進のため取り組んでいる事業						
1)	区民が文化芸術を鑑賞、参加する機会の充実						国際化・文化芸術担当
	達成状況	区内美術館などと連携し、区民が文化芸術に親しむきっかけをつくる文化芸術のちから集中プログラム（ミナコレ）や、区内で活動する音楽愛好家等の演奏による、鑑賞無料のロビーコンサートの開催、アートと街が一体化した祭典「六本木アートナイト」への共同主催者としての参画など、区民の皆さんが日常的に文化芸術に触れるきっかけ・環境づくりを進めています。 また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成とレガシー創出を目指すため、区内団体等との連携により、港区ならではの文化プログラムを展開しています。					
	課題	港区の人口の増加や就労・生活形態の多様化に合わせ、より多くの区民が身近なところで文化芸術を鑑賞、参加できる機会を充実させるため、情報の発信方法等を工夫する必要があります。					
2)	区民が文化芸術を体験、創造する機会の充実						国際化・文化芸術担当
	達成状況	文化芸術フェスティバルの開催などにより、区民が音楽や演劇などに触れ、体験し、創造する機会を提供しています。					
	課題	世代や障害の有無、国籍に関わらず、より多くの区民が気軽に文化芸術を体験、創造できる機会の充実を図ることが必要です。					

施策② 多様な主体との協働による文化芸術振興

施策担当課	国際化・文化芸術担当	関係課	—				評価 (S~D)	S
成果目標	多様な主体とのネットワークが形成され、新たな文化芸術活動の創造・推進につながっている							
活動指標		26(当初)	29(目標)	27(実績)	28(実績)	29(予測)	達成状況	
港区文化芸術ネットワーク会議への参加団体数		26団体	40団体	59団体	51団体	60団体	達成	
活動指標の説明、達成状況に関する特記事項	文化芸術関連団体の連携を促進する場である港区文化芸術ネットワーク会議への参加団体数は、多種多様な団体同士の連携状況を反映することから、指標に設定しています。 会議では、文化プログラムに関する国の動向や区の取り組み等について情報提供したり、活動団体の事業を発表するなど、文化芸術団体の関心が高いテーマや団体の活動を取り上げることで、参加団体数の増加を促進してきました。							
No.	施策の推進のため取り組んでいる事業							
1)		多様な主体とのネットワークの構築と協働					国際化・文化芸術担当	
達成状況		新たな文化芸術の創造や事業連携、効果的な情報発信などの推進のため、文化芸術活動主体の協力・連携の場として、平成25年度に文化芸術ネットワーク会議を設置し、毎年度開催しています。						
課題		文化芸術ネットワーク会議の参加団体からは、さらなる文化芸術活動主体の協力・連携の場としての役割を求められており、運営方法等に工夫が必要です。						
2)		多様な主体の活動に対する支援					国際化・文化芸術担当	
達成状況		区内で行われる多彩な文化芸術活動及びそれらの活動を行う団体を育成するため、港区文化芸術活動サポート事業により、経費の一部を助成するとともに、専門家のアドバイスにより支援しています。						
課題		将来の港区の文化芸術を支える団体の育成と活性化を図るため、今後も経費の助成と専門家のアドバイスが必要です。また、公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団の文化施策への効果的な役割についても、改めて整理する必要があります。						

施策③ 文化芸術都市・港区に向けての基盤整備

施策担当課	国際化・文化芸術担当	関係課	—				評価 (S~D)	B	
成果目標	区民が文化芸術を鑑賞、参加、創造することができる環境が整備されている								
活動指標	26(当初)	29(目標)	27(実績)	28(実績)	29(予測)	達成状況			
文化芸術振興基金充当事業数	18事業	20事業	11事業	15事業	14事業	未達成			
活動指標の説明、達成状況に関する特記事項	基金を活用して文化芸術振興事業を実施することは、区の文化芸術振興施策が安定的に実施されることになり、このことが施策基盤の整備につながることから、文化芸術振興基金充当事業数を指標に設定しています。事業数は減少していますが、金額は、81,689千円(平成26年度)、66,001千円(平成27年度)、131,066千円(平成28年度)、139,404千円(平成29年度)となっており、当初より増加しています。								
No.	施策の推進のため取り組んでいる事業								
1)	文化芸術振興の拠点となる(仮称)文化芸術ホールの整備							国際化・文化芸術担当	
	全体計画 目 (32年度末)	現 状 (26年度末)	必要事業量		前期(事業計画)				後期
					27年度	28年度	29年度	計	(30~32年度)
	建設中	調査	建設中	計画	設計	設計	建設中	建設中	建設中
				実績	設計	設計	設計	設計	—
遅延理由	浜松町二丁目C地区の市街地再開発事業において調整が生じたため								
2)	文化芸術振興施策の総合的推進							国際化・文化芸術担当	
	達成状況	平成29年度に予定している文化芸術振興プランの策定に活用するため、区民、文化芸術活動団体、文化芸術施設等を対象に文化芸術に関する実態調査を実施しました。							
課題	区内における文化芸術の振興を効果的・効率的かつ総合的に推進し、心豊かな区民生活と魅力ある地域社会の実現を図るため、実態調査等を踏まえ、文化芸術振興プランを策定する必要があります。併せて、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成、さらにはレガシー創出(未来に残すべき伝統、人材、知恵等の継承)を踏まえ、策定する必要があります。								

施策④ 自然・歴史文化資源の保全・継承・活用の推進

施策担当課	図書・文化財課	関係課	—				評価 (S~D)	A	
成果目標	自然・歴史文化資源の収集・保存・調査研究が進み、保全・継承・活用が推進されている								
活動指標	26(当初)	29(目標)	27(実績)	28(実績)	29(予測)	達成状況			
郷土資料館文化財資料収集件数	64,464件 (平成25年度)	70,000件	69,078件	71,895件	72,000件	達成			
活動指標の説明、達成状況に関する特記事項	新郷土資料館の開設準備に関する業務量が多く、資料収集にかけられる時間が少なかったが目標を達成できました。平成29年度については引き続き開設準備の業務がありますが、業務分担の見直しや業務の効率化を図ります。								
No.	施策の推進のため取り組んでいる事業								
1)	新郷土資料館の整備 図書・文化財課								
	全体計画 目標 (32年度末)	現 状 (26年度末)	必要事業量	前期(事業計画)				後期	
				27年度	28年度	29年度	計	(30~32年度)	
	完成 (改修)	設計	完成 (改修)	計画	設計	改修中	改修中	完成 (改修)	—
				実績	設計	改修中	改修中	完成 (改修)	—
遅延理由	—								
2)	郷土資料の調査・研究・収集活動の推進 図書・文化財課								
	達成状況	区が所蔵する区の自然、歴史、文化に関する資料のほか、関連機関等が所有する資料を対象に、調査、研究を深めます。また、購入・寄贈等の手法による二次資料の収集を進めるとともに、調査、研究の成果を、展示や刊行物等を通じて公開しました。							
	課題	新郷土資料館開設準備と並行して調査・研究・収集活動を推進するには、業務の効率化等の対策を取る必要があります。							
3)	自然・歴史文化資源のデジタル形式の保存と公開 図書・文化財課								
	達成状況	区の指定文化財や、区が所蔵している江戸図・浮世絵等のデジタル形式による保存を進めました。							
	課題	デジタル化の対象を拡充する必要があります							
4)	伝統工芸の記録による保存と継承手法の検討 図書・文化財課								
	達成状況	伝統工芸を次世代へ継承するため、三味線製作技術を映像化しました。							
	課題	伝統工芸の記録・保存方法と承継手法については、費用対効果等さまざまな方向から検討する必要があります。							

施策⑤ 区民が誇りに思える郷土意識の育成

施策担当課	図書・文化財課	関係課	—			評価 (S~D)	B
成果目標	区民や様々な機関との連携、協働が進み、文化財保護意識が高まっている						
活動指標	26(当初)	29(目標)	27(実績)	28(実績)	29(予測)	達成状況	
郷土資料館講座等の参加者数	422人	440人	468人	396人	350人	未達成	
活動指標の説明、達成状況に関する特記事項	新郷土資料館開設準備と並行して、文化財保護意識の醸成や生涯学習の推進を図るためには、講座準備の工夫や外部講師の活用などの対策を取っていく必要があります。						
No.	施策の推進のため取り組んでいる事業						
1)	文化財保護意識の醸成					図書・文化財課	
	達成状況	郷土資料館講座等各種事業を実施、各種刊行物の作成など、充実を図っています。					
	課題	新郷土資料館開設準備と合わせて、充実するよう検討します。					
2)	文化財保護の仕組み確立					図書・文化財課	
	達成状況	区内に所在する歴史的価値のある資料等を文化財として指定や登録を行い、文化財保護の意識の啓発や普及を行い、次世代に継承しています。					
	課題	文化財の種類に応じた保護の仕組みの確立を検討します。					
3)	学校教育・生涯学習との連携強化					図書・文化財課	
	達成状況	小・中学校が夏休みの時期に東京海洋大学との連携講座を実施しています。					
	課題	学校の夏休み時期以外に実施が困難であること。					
4)	文化財保護ならびに郷土史継承活動推進のための人材育成					図書・文化財課	
	達成状況	各総合支所が実施する区の歴史に関する事業を支援しています。					
	課題	新郷土資料館開設準備と合わせて、育成方法等を検討する必要があります。					